

# 筑波大学大学院共通科目 平成 26 年度「国際研究プロジェクト」公開報告書

生命環境科学研究科 環境科学専攻 修士前期課程 2年

学籍番号 201221182

柳澤 翔太

## 背景

インドネシアの原生林は、2000年から2012年にかけて6.02Mhaもの面積が消失し、2012年においてブラジルを抜き世界最大の原生林消失面積を記録している。森林減少・劣化の主要な誘因の一つは農業フロンティアでの大規模森林開発であり、1970年代前半から天然林伐採権の発給による森林開発による木材生産が図られ、そして近年世界的な人口増加による食糧需給の高まりを受け、インドネシア島嶼部において急速なアブラヤシ農園が拡大していった。こうした中、保護区は、生物多様性や動植物の生態系の保全にとり、相対的にますます重要な役割を担っている。保護区管理の観点から、保護区周辺でのアブラヤシ農園開発は、保護区に取り外部要因であり、これが保護区にどのように影響を及ぼすかを把握することは、今後の保護区管理政策やREDD+にとり重要な示唆を与えると考えられる。

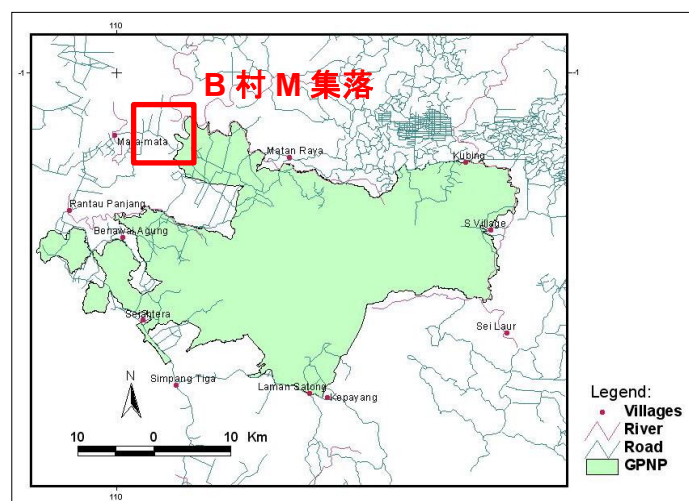
## 本研究の目的

本研究では、西カリマンタン州に位置するグヌンパルン国立公園(以下 GPNP)周辺地域を対象に、大規模農園開発による保護区への影響を、地域住民の就業構造の変化と現時点での社会構造の点から明らかにし、以下の結果を踏まえ国立公園管理の方向性を検討する。



## 方法

- ①クタパン県における大規模農園の拡大過程について、農園局および森林局、統計局にて資料収集を行い、動向を整理した。
- ②GPNP とアブラヤシ農園双方に隣接する M 集落を選定し、全 123 世帯から 60 世帯 (49%) を無作為抽出し、住民の生計活動及び土地利用に関して調査票を用いた訪問面接を行った。



西カリマンタン州 グヌンパルン国立公園



### 調査集落の様子

町からのアクセスが悪く、電気及び電波が依然届いていない集落であった。



### 天水稲作の種まきの様子

M 集落の主要農業は、天水稲作で、村の慣習法により、最初の種まきは女性が担当する。



### 陸稲

陸稲は、水稲より香りが良いらしい。また、陸稲の種類も 20 種類ぐらいを使い分けていた。



### アブラヤシ農園

一面すべてが農園で、開拓以前が森林だと考えると、どのくらいの森林が消失したのか。



### 収穫されたアブラヤシ

道端には、所々このようにアブラヤシが集められていた。



### アブラヤシの運搬作業

農園内は、トラックにより敷地内の工場に運ばれ、加工された後、多くは海外に輸出される。

今回の現地調査によって得られた成果は以下のとおりである。

- 1) 前回の予備調査を踏まえフィールド本調査を B 村 M 集落にて実施し、データ収集ができた。
- 2) 調査集落周辺のアブラヤシ農園企業 J 社にて、資料収集及びヒアリングを実施し、農園企業と B 村のかかわりが把握できた。
- 3) GPNP を含むクタパン県及びカヨンウタラ県におけるアブラヤシ農園の 1990 年～2014 年までの動向を整理できた。

今後は、住民の土地利用変化と経済状況の関連性を分析することで、農園が設立したことによる GPNP への影響を明らかにし、今後の保護区管理の方向性を検討していく。